

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2590100869		
法人名	株式会社サンガジャパン		
事業所名	かたた駅前グループホーム(比叡ユニット)		
所在地	滋賀県大津市本堅田6丁目31-29		
自己評価作成日	令和3年10月24日	評価結果市町村受理日	令和3年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> * ご利用者様の笑顔絶やさぬよう、「できない」をなくしたいチャレンジの毎日をつくっております。 * 毎月のイベントを工夫し、ご利用者様自らが準備に参加され、楽しんでいただけるようにしております。 * 記録を大切に考え、スタッフの情報共有が徹底できるよう、いろいろ工夫しております。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/25/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&liyosyoCd=2590100869-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ショートステイ専用の施設として開設し、その後住宅型有料老人ホームに変更。平成31年4月1日からグループホームに業態を変更した、居宅介護支援事業所を併設した2ユニットのグループホームです。有料老人ホームからの入居者が多いこともあり、比較的自立度も高い事業所です。コロナ禍の中でも、様々な事業所イベントが行われており、花見喫茶ではドリップコーヒーをたてたり、事業所内にあじさい寺と写真スポットを作り、外出気分を味わってもらえるよう工夫しています。また、事業所内にコンビニのセットを作り、独自の紙幣で疑似的に買い物ができるようにするなどの外出演出もしています。更には運動会を実施し、立位の取り難い方でも参加できるよう工夫しながら、綱引きやパン食い競争を行うなど、楽しみの演出にも工夫を凝らしています。近くにある同法人の別事業所と合同でイベントを開催して地域住民との関りも持っていましたが、コロナ禍の影響により中止を余儀なくされています。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21		
訪問調査日	令和3年11月22日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営推進会議がコロナ禍で直接の集まりは実施できていないが、書面を通して定期的に自治会に報告をさせていただいている。	法人の定める「感動介護憲章」「理念」「職員クレド(行動指針)」を掲示し、毎日の朝礼で唱和しています。毎年実施される理念研修は、入職時にも行われ、理念浸透には力を入れています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前の訪問ボランティアなどは、コロナ禍で実施できず、施設の周りの清掃を月2回短時間で可能なご利用者様と行っている。	自治会に加入し、地域の清掃活動に参加をしています(現在は職員のみ)。同法人の近隣事業所と共同で行われていた行事には、地域住民も参加するなど、地域ぐるみの活動を行っていましたが、現在はコロナ感染予防対策の観点から中止を余儀なくされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前認知症カフェを予定したものの、コロナ禍で中止となり、その後できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で書面でご家族からのご意見ご要望をいただき、それをできる限りサービス改善につなげるようにしている。	2ヶ月に一度の書面開催とし、議事録は「活動状況報告書」として、家族・民生委員・自治会へ配布しています。開催前には、家族から意見を聴き取り、その内容と回答・対応を活動状況報告書に記載しています。	運営推進会議議事録(活動状況報告書)は、地域包括・役所へも提出することが求められます。特に地域包括との関係強化は必須であり、意見の聴取や情報収集のための関係作りは急務だと思われます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の事業所施設整備室からくるメールで市の方針を確認し、必要に応じて連絡、報告を実施している。	運営推進会議の議事録(活動状況報告書)の役所への提出は現在のところ行っていません。確認の必要があります。役所や地域包括主催の事業者連絡会や勉強会等については、案内に応じて参加をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止に関しては、定期的に委員会を開き、テックリストを通してスタッフの状況を把握するように努めている。 ユニットの入口は解放している。	身体拘束廃止委員会を3ヶ月毎に開催し、虐待・身体拘束の理解を深めるとともに、自己点検シートを活用して、不適切ケアについての認識の確認を行っています。また、年間研修計画に基づいて、年2回の研修を実施し、研修参加者は研修報告書を提出しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を身体拘束防止委員会と共に開催し、スタッフの意識が向上するように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修や話し合いの場がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、丁寧に説明を行い、同意を得ている。(契約時間約2時間)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議(書面)でご家族の意見をいただくようにしている。 ご利用者のアンケートを実施して意見をいただけるようにしている。	運営推進会議前に家族からの意見を書面で収集するとともに、面会や日用品の持参時に直接聴き取るように努めています。年2回、利用者アンケートを、食事・入浴・掃除・レクといった項目ごとに職員が聴き取り、運営に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議を実施している。 職員からの意見はあまり多くない。 会社全体で職員満足度調査を毎年行っている。	管理者は、日頃の職員との関りで聴き取った意見や要望を、毎月実施される全体会議の議案に挙げ、運営に活かせるよう努めています。また、毎月のユニット会議では、入居者一人ひとりの状況報告と併せて、運営に関する意見も聴き取っています。職員意見により、玄関先にベンチを設置し、外気浴などが楽しめるようになった事例もあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理に努めているが、人員不足は否めない状況。 業務に関する想いを伝えたり、共有するように務めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内での研修制度があり、職員のスキルアップを考えてはいるが、人員不足のため具体的に進められていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業事業所が集まるサービス向上委員会を毎月実施している。 職員の親睦会はオンラインで実施しているが、頻度は少ない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用自身の気持ちに寄り添ったケアができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意見要望を真摯に聞き、良き関係を築けるよう務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者のその時、その状態に応じた対応を提案し、ご家族の意向に沿って進めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活としての考えを進めて、少しずつ実践に移しているが、浸透には時間がかかる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族を含めた、環境全体を生活ととらえ、心掛けているが、浸透には時間がかかる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でなかなか実施できていない。	入居前からの友人が面会に来ることもありましたが、現在はコロナ感染予防対策により、窓越しの面会や、時間制限を設けた居室での家族面会に留まっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	イベントや集団レクを通して進めているが、被害妄想などで関係が難しくなっている ご利用者に関しては、間に入り、環境を工夫し、他のご利用者に気付かれぬよう、自然な雰囲気を作り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで退去された方に関しては、ご家族やご本人の必要に応じてのみ実施している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り実施している。施設で「夢の実現」の取り組みを行っており、ご利用者のご希望に沿ったイベントを計画実施している。	日常生活に関わる項目(食事・入浴・掃除・レク等)の聴き取りを行い、必要な情報は介護記録に記載し職員間で共有しています。	入居者の情報は、アセスメントシートやフェイスシートにまとめられていますが、日頃の関りから得られたケアに活かせる新しい情報については、一元的にまとめられるまでには至っていません。センター方式の書式などを活用し、職員が一人ひとりの入居者の情報を把握しやすい情報の整理が望まれます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室の家具等は馴染の家具を使っていただいている。生活環境の掘り下げはまだできていない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の把握は注意している。朝礼や申し送りでの注意ポイントを職員で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者を割り当て、ご利用者個々の意向やニーズに対応できるよう努めている。それを介護計画に反映できるよう心掛けている。	短期目標の期間(6ヵ月)毎に介護計画の見直しと検討を行っています。毎月のモニタリングは、計画作成担当者・居室担当職員が分担して実施し、計画の見直しに活かされています。サービス担当者会議前には、医師・薬局に意見照会を行い、議事録にも残しています。緊急事態宣言下は、サービス担当者会議への、家族参加はありませんでしたが、現在は参加を呼びかけ実現してきています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノートで情報共有し、毎月のカンファレンスで、意見を出し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	若年性の方にはリハビリを行い、職業支援も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用はできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者それぞれがかかりつけ医を持っており、連携に努めている。	協力医とは24時間、365日の連携体制があり、月2回の往診も実施されています。入居前までのかかりつけ医を継続される方もおり、家族協力のもと専門医の受診を継続されている方もいます。訪問歯科は契約している特定の利用者からのみの利用になっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	直接雇用の看護師を配置し、ご利用者の体調の変化等は、専門的な意見を看護師より発信し、共有に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報のやり取りに努めている。病院やご家族とも情報共有し、ご本人の早い回復と病院との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針は立てており、入居時にも説明している。まだ重度化が進んだ事例はない。生前指示書は用意されているが、話し合いはまだ行われていない。	「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、入居時には同意と延命に関する意向確認を行っています。看取りの実績はありませんが、今後備え、看取り実績のある事業所管理者から研修を受けています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修など行っているが、実践力は今後養っていく必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練(火災)を行なっているが水害や地震などの訓練は行われていない。	年2回の消防訓練を実施(内1回は夜間想定)しています。今年度はコロナ禍の影響により、自主訓練となっています(消防署への報告は有り)。備蓄の飲食品は、入居者3日間分を備えています。	自然災害に備えた訓練は必須です。昨今の自然災害からの大規模停電については急務です。またハザードマップを掲示し、飲食品以外の備蓄を検討する必要があります。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳、プライバシー保護に配慮した個別対応を心掛けている。言葉遣いにも注意している。	年間研修計画にプライバシー保護の研修を定め、実施しています。特に声掛けの際には、プライバシーに配慮するよう、日常的な指導が行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	定期的なご利用者アンケートを通して希望を聞いたり、入浴など個人対応の介助の場で希望を聞き、対応するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々人の希望を尊重したケアを心掛けている。希望による部屋食や各生活時間の変更等柔軟に行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みや希望を尊重し、着替えなど行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みはできるだけ対応するようにしている。食器拭きや料理の盛り付け等もご利用者の状況により行っている。	湯煎式の食事を採用しており、配膳・下膳・盛り付けなどは、入居者の状態を見ながら一緒にできるような支援をしています。月一度の食事レクでは、入居者の希望を聞きながら、手作りで食事提供を行っています。また、行事時にはバイキング形式の食事や松花堂弁当への盛り付け、手作りおやつ提供など、趣向を凝らした食の提供を行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェックし、朝礼時に特記があれば、報告、情報共有し注意するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕の口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	能力に応じて、出来るだけトイレでの排泄を促している。	現在は排泄が自立されている方が多く、誘導を行う必要がほとんどない状況です。やむを得ない事情によりおむつ使用の方もいますが、基本的には一人ひとりの状態に合わせて、布パンツ・紙パンツ・パッドを使用しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、便秘時は主治医の指示に従い、便秘薬を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個浴でゆっくり入っていただけるよう心掛けている。	週2回の入浴を基本とし、体調を見ながら清拭や足浴に変更するなど、臨機応変な対応を行っています。片方のユニットはリフトが設置されており、身体状況に応じてリフト浴を使用することができます。入浴剤や季節湯については今のところ取り組みはありません。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも疲れたら臥床時間を取れるようにしている。夜間も個々人の習慣やペースを大切にしてい入床していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を職員で共有できるようにしている。薬の変更時は申し送りするようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみ事、気分転換は個々人の希望に沿ってできるよう心掛けている。役割はイベント準備などその方の適正に合わせて持っていただけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で実施できていない。	コロナ禍の影響により、様々な外出機会が失われていた中、敷地内での外気浴・日光浴を行ったり、洗濯物干しを一緒に行ったりすることで、少しでも外気に触れ、気分転換できるように支援しています。また、最近では、車外に出ないドライブ外出も実施しており、徐々に外出の機会を増やしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からの依頼があった場合には、お金を持っていたいでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用できる方々は、携帯電話を所持していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は清潔を保つよう心掛けている。 季節を感じていただけるように、毎月装飾など工夫するようにしている。	全体的に広々とした空間と、大きな窓による採光もよく、明るく清潔感のあるリビングになっています。通学路に面した窓際に敷物を敷き、通学途中の小学生と窓越しにコミュニケーションを取れるよう工夫しています。レクリエーションで制作した季節の飾り付けを行い、季節毎の装飾にも配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やエントランスに椅子を置いたり、リビングの片すみにソファを置き、一人、または複数で自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室環境はご本人又はご家族と話し合って整備している。家から使い慣れたものを持参していただいたり、介護に必要なものは施設で用意する等話し合っている。	前の事業形態(住宅型有料老人ホーム)の頃からの入居者が多く、冷蔵庫や椅子・テーブル、ラジカセなどを持ち込まれている方もおり、個性的な設えになっています。新たな入居者には、馴染みの物の持ち込みをお願いしており、居心地よく過ごせるよう工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の「できる」を生かした生活の提供を心掛けている。転倒リスクを考え居室のレイアウトや介助方法も考えている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2590100869		
法人名	株式会社サンガジャパン		
事業所名	かたた駅前グループホーム(比良ユニット)		
所在地	滋賀県大津市本堅田6丁目31-29		
自己評価作成日	令和3年10月24日	評価結果市町村受理日	令和3年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>* ご利用者様の笑顔を絶やさぬよう、「できない」をなくしたいチャレンジの毎日をつくっております。</p> <p>* 毎月のイベントを工夫し、ご利用者様自らが準備に参加され、楽しんでいただけるようにしております。</p> <p>* 記録を大切に考え、スタッフの情報共有が徹底できるよう、いろいろ工夫しております。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/25/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&ligvsysCd=2590100869-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>比叡ユニットに同じ</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21		
訪問調査日	令和3年11月22日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営推進会議がコロナ禍で直接の集まりは実施できていないが、書面を通して定期的に自治会に報告をさせていただいている。	比叡ユニットに同じ	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前の訪問ボランティアなどは、コロナ禍で実施できず、施設の周りの清掃を月2回短時間で可能なご利用者様と行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前認知症カフェを予定したものの、コロナ禍で中止となり、その後できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で書面でご家族からのご意見ご要望をいただき、それをできる限りサービス改善につなげるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の事業所施設整備室からくるメールで市の方針を確認し、必要に応じて連絡、報告を実施している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止に関しては、定期的に委員会を開き、チェックリストを通してスタッフの状況を把握するように努めている。 ユニットの入口は解放している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を身体拘束防止委員会と共に開催し、スタッフの意識が向上するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修や話し合いの場がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、丁寧に説明を行い、同意を得ている。(契約時間約2時間)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議(書面)でご家族の意見をいただくようにしている。 ご利用者のアンケートを実施して意見をいただけるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議を実施している。 職員からの意見はあまり多くない。 会社全体で職員満足度調査を毎年行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理に努めているが、人員不足は否めない状況。 業務に関する想いを伝えたり、共有するように務めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内での研修制度があり、職員のスキルアップを考えてはいるが、人員不足のため具体的に進められていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業事業所が集まるサービス向上委員会を毎月実施している。 職員の親睦会はオンラインで実施しているが、頻度は少ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用自身の気持ちに寄り添ったケアができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意見要望を真摯に聞き、良き関係性を築けるよう務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者のその時、その状態に応じた対応を提案し、ご家族の意向に沿って進めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活としての考えを進めて、少しずつ実践に移しているが、浸透には時間がかかる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族を含めた、環境全体を生活ととらえ、心掛けているが、浸透には時間がかかる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でなかなか実施できていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	イベントや集団レクを通して進めているが、被害妄想などで関係が難しくなっている ご利用者に関しては、間に入り、環境を工夫し、他のご利用者に気付かれぬよう、自然な雰囲気を作り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで退去された方に関しては、ご家族やご本人の必要に応じてのみ実施している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り実施している。施設で「夢の実現」の取り組みを行っており、ご利用者のご希望に沿ったイベントを計画実施している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室の家具等は馴染の家具を使っていたりしている。生活環境の掘り下げはまだできていない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の把握は注意している。朝礼や申し送りでの注意ポイントを職員で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者を割り当て、ご利用者個々の意向やニーズに対応できるよう努めている。それを介護計画に反映できるよう心掛けている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノートで情報共有し、毎月のカンファレンスで、意見を出し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	若年性の方にはリハビリを行い、職業支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用はできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者それぞれがかかりつけ医を持っており、連携に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	直接雇用の看護師を配置し、ご利用者の体調の変化等は、専門的な意見を看護師より発信し、共有に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報のやり取りに努めている。病院やご家族とも情報共有し、ご本人の早い回復と病院との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針は立てており、入居時にも説明している。まだ重度化が進んだ事例はない。生前指示書は用意されているが、話し合いはまだ行われていない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修など行っているが、実践力は今後養っていく必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練(火災)を行なっているが水害や地震などの訓練は行われていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳、プライバシー保護に配慮した個別対応を心掛けている。 言葉遣いにも注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	定期的なご利用者アンケートを通して希望を聞いたり、入浴など個人対応の介助の場で希望を聞き、対応するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々人の希望を尊重したケアを心掛けている。 希望による部屋食や各生活時間の変更等柔軟に行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みや希望を尊重し、着替えなど行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みはできるだけ対応するようにしている。 食器拭きや料理の盛り付け等もご利用者の状況により行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェックし、朝礼時に特記があれば、報告、情報共有し注意するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕の口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	能力に応じて、出来るだけトイレでの排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、便秘時は主治医の指示に従い、便秘薬を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個浴でゆっくり入っていただけるよう心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも疲れたら臥床時間を取れるようにしている。夜間も個々人の習慣やペースを大切にしてい入床していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を職員で共有できるようにしている。薬の変更時は申し送りするようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみ事、気分転換は個々人の希望に沿ってできるよう心掛けている。役割はイベント準備などその方の適正に合わせ持っていただけるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で実施できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からの依頼があった場合には、お金を持っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用できる方々は、携帯電話を所持していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は清潔を保つよう心掛けている。 季節を感じていただけるように、毎月装飾など工夫するようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やエントランスに椅子を置いたり、リビングの片すみにソファを置き、一人、または複数で自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室環境はご本人又はご家族と話し合って整備している。家から使い慣れたものを持参していただいたり、介護に必要なものは施設で用意する等話し合っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の「できる」を生かした生活の提供を心掛けている。転倒リスクを考え居室のレイアウトや介助方法も考えている。		